

第17回南のシナリオ大賞

大賞

Perfect World くよらっそ

永合弘乃

登場人物

ヨージ (25) IT企業社長
サチコ (23) 会社員
ムツミ (40) サチコの母
アパートの管理人

「Perfect World くよらっそ」 あらすじ

カフェで小説を読んでいたヨージ (25) はサチコ (23) と名乗る女性に突然声をかけられる。ふたりは意気投合し、デートを重ねるようになるが、サチコはある日突然 姿を消した。

ヨージはサチコの小説に挟まっていたメモの住所を頼りに、サチコを探しに行く。そこは福岡県福岡市にあるサチコの実家だった。ヨージはサチコの母・ムツミから、サチコが長い闘病の末、亡くなったことを告げられる。さらに彼女の実年齢は15歳で23歳と偽ってヨージとデートを重ねていたことも発覚する。「一度でいいからデートをしたい」それがサチコの夢だった。

自宅に戻ったヨージはVRゴーグルを装着しパソコンを立ち上げた。サチコとヨージが出会ったのは、バーチャル空間『Perfect World』。ヨージは『Perfect World』を退会し、ヨージ (45) として現実を生きることを決意する。

SE パソコンの起動音。

自動音声 「Perfect World くよらっそ」

ヨージM 「完璧な恋愛なんて、存在しないと
思っていた。…彼女に会うまでは」

SE ベル付きドアを開ける音

ヨージM 「彼女が突然声をかけてきたのは、僕
が喫茶店で小説を読んでいたときだった」

サチコ 「あのおすみません。何読んどーと？」

ヨージ 「え？ 『ライ麦畑でつかまえて』です
けど…」

サチコ 「やっぱり？ 隣、いい？」

ヨージ 「…ど、どうぞ」

サチコ 「ふふ、やったあ」

SE 椅子を引く音。

ヨージM「隣に座った彼女は、無言で僕の指先がページをめくるのを見つめていた」

SE 小説のページをめくる音

ヨージ「な、なに?」

サチコ「いいからいいから」

ヨージ「そんなに見られると集中できないよも
しかして、この小説好きなの?」

サチコ「大好き。人が読んでるのを盗み見し

ちゃうくらいにね」

ヨージ「…君、名前は?」

サチコ「サチコ。あなたは?」

ヨージ「俺はヨージ。年は?」

サチコ「えー! いきなり女性に年齢聞くのは

反則。聞くからには先に答えてよ」

ヨージ「俺は、ヨージ。25歳」

サチコ「思ったより若いね もっとオッサンかと

思った。私はサチコ。23歳」

ヨージ「(笑って) 君も失礼だな。サチコさん

は思ったより大人だ」

サチコ「サチコでいいよ」

ヨージ「俺もヨージでいいよ」

サチコ「じゃあ…:ヨージ! ヨージは他にど
んな小説を読むん?」

ヨージM「胸が大きく高鳴った。サチコとの出
会いは、僕が理想とする恋のはじまりそのも
のだったから」

SE ベル付きドアを開ける音

ヨージM「それからというもの、僕とサチコは自
分の好きな小説を持ち寄って、この喫茶店
に集合した」

サチコ「はい、今日はこれ!」

ヨージ「あ、この新作、今読んでる」

サチコ「はや! 先週発売されたばかりや
ん」

ん」

ヨージ「サチコこそ、もう読んだの? ってか

俺たち、やっぱり好きな物語が似てるよな」

サチコ「うん。なんか、うれしい」

ヨージ「俺も」

サチコ「…あのさヨージ。今後、一緒に行きたい
ところがあるの」

SE 打ち上げ花火の音

サチコ「わあああ…綺麗! 初めて見た!」

ヨージ「えっ? 花火見るの、初めて?」

サチコ「うん」

ヨージ「へー。珍しいね じゃあ オプシオンで
豪華な花火にしよう。何色が好き?」

サチコ「(即答) 赤!」

ヨージ「じゃあ真っ赤な打ち上げ花火! は
い!」

SE 打ち上げ花火の音

サチコ「わあああ…」

ヨージ「ってかサチコ、彼氏と花火大会行った
りしなかったの？」

サチコ「うん。実は私、恋人いたことなくて」

ヨージ「意外だな。こんなかわいい子、俺なら
ほっとかないな」

サチコ「じゃあ、さ」

ヨージ「ん？」

サチコ「ヨージが私の初めての恋人になってよ。

それで本物の花火、見せて」

SE 打ち上げ花火の音

ヨージN「こうして、僕たちは恋人同士になっ
た」

サチコ「あつ、ヨージきた！ おそーい」

ヨージ「ごめんごめん 仕事が長引いちゃって」

サチコ「さすがIT企業の若手経営者、スーッ
姿が決まってるね」

ヨージ「サチコこそ、今日はジャケット姿でなん
か雰囲気違うね」

サチコ「これでもOLやってますから。かつこい
い彼と仕事終わりのデート、すごく憧れてた
の。…夢が叶った」

ヨージ「大げさだな。さあ、デートに行こう」

サチコ「うん！」

ヨージ「どこがいい？ 東京 沖縄 北海道 ど
こでもいいよ」

サチコ「えー！ どこにしよう、迷っちゃうな
〜」

ヨージN「サチコと出会って、僕の人生は、一

気に輝きだした。サチコとのデートは僕の理
想そのものだったからだ。でもー。この日
を最後に、サチコは僕の前から姿を消した」

ヨージ「ハア、ハア、サチコ！ どこにいっ
ちゃったんだ？」

ヨージN「次の日も、その次の日も、僕はサチコ
を探し続けた。だけど、彼女の姿はどこにも
なかった」

×××

ヨージN「それから」か月ほどたったある日、
僕はサチコを忘れられず、彼女と出会った喫
茶店へ通い詰めていた」

SE 小説のページをめくる音

ヨージ「ん？ なんだこれ」

ヨージN「サチコに借りたままの小説を読んで
いると、しおり代わりに1枚のメモが挟みこ
まれていることに気づいた」

SE ベル付きドアを開ける音

ヨージ「(メモを開いて) 私がいなくなったら
ここに来て。福岡県福岡市博多区…まさ
か!」

サチコの声「何読んどーと?」

ヨージN「サチコの博多弁がリフレインする」

SE パソコンのシャットダウン音。

ヨージN「僕は衝動的に、博多行きの新幹線へ
と飛び乗った」

SE 電車のドアが開く音

ヨージ「マップ通りだと、ここのはずだな…」

SE 玄関のチャイム音

ムツミ「…はい」

ヨージ「あ、あの、すみません サチコさんのお
宅でしうか」

ムツミ「…:はい」

ヨージ「サチコさんと突然連絡が取れなくなっ
て、心配で…。僕、ヨージと言います」

ムツミ「ああ、ヨージさんですね。娘から話は聞
いていました。サチコの母のムツミです」

ヨージN「ムツミさんは、23歳の娘を持つ母と
してはかなり若く見えた。彼女は僕を上から
下と舐めるように見ると、怪訝な表情を浮か
べた」

べた」

ムツミ「本当に、ヨージさん、ですよね?」

ヨージ「そうですけど」

ムツミ「サチコと聞いていたのとはずいぶん印
象が違うようで。もっと若い方かと…」

ヨージ「…すみません」

ムツミ「いえ、中へどうぞ」

ヨージ「お邪魔します。…:え?」

ヨージN「目の前が一瞬 真つ暗になった。僕
の目の前に飛び込んできたのは、制服姿で微
笑む少女の位牌だったからだ」

ムツミ「…死んで、半月になります」

ヨージ「う、そだ。…これ サチコじゃないです
よね?」

ムツミ「いいえ、サチコです」

ヨージ「うそだ。信じられない。だってサチコは
23歳のOLで…」

ムツミ「まあ。あつちの世界ではそういう『設
定』だったのね。サチコの本当の年齢は15
歳」

歳」

ヨージ「15歳…」

ムツミ「あの子ったら背伸びしちゃったのねご
めんない、ヨージさん」

ヨージ「いいえ、僕は…」

ムツミ「サチコ、生まれた時からずっと病室育

ちでね、それでも『大人になったら、かっこいい男の人とデートがしたい』って希望を持っていたのよ。20歳まで生きられないって言われていたから、叶わないと思っていただけ…」

ヨージ「…そんな」

ムツミ「ヨージさん、あなたがあつちの世界でサチコの夢をかなえてくれたのね、ありがとう」
ヨージ「（震える小さな声）僕、何も知らずに…ほんとうに、すみません」
ムツミ「いいのいいの。あと、これ、サチコからあなた宛ての手紙を預かったの」

×××

SE パソコンの起動音

自動音声「Perfect Worldへようこそ。ここは、あなたの理想の人生をかなえるバーチャル空

間です」

SE パソコンのクリック音

自動音声「ヨージさん、25歳、職業、IT企業経営者。男性アバター。この設定で、Perfect Worldへログインしますか？」

ヨージ「サチコごめん、俺も君に嘘をついていたんだ。君に好かれたくて。君と一緒にいたくて。本当は俺、君と一緒に、恋人なんて一度も…」

SE ドアを強くたたく音

アパートの管理人「田中さん！ おーい！

田中ヨージさんよ！ いるのは分かっているんだ！ いい加減、アパートの家賃払ってくれよ、来月滞納したら強制退去だからな！」

ヨージ「（震える小さな声）サチコごめん…」

アパートの管理人「まったく、45歳にもなつて引

きこもりなんて、みっともないと思わないのかねえ」

×××

ヨージN「僕とサチコが出会ったのは、バーチャル空間『Perfect World』だった。ここで自分の作り出した設定とアバターで、世界中の人と交流できる。お金や距離に縛られることもなく、自分の思い描いた通りの人生を送ることが可能だ。僕は現実世界から逃げ、一日のほとんどを『Perfect World』で過ごしていた」

SE 打ち上げ花火の音

ヨージ「…今日は花火大会か」

SE 窓を開ける音

ヨージN「窓から見た現実の花火は、サチコと
バーチャル空間で見た花火よりも、もつと
ずつと、綺麗で、儚かった。僕は、花火で真っ
赤に照らされた室内の中で、サチコからの手
紙を開いた」

自動音声「Perfect Worldへログインします
か？」

ヨージ「サチコ、俺、もう一度だけ、現実を生き
てみるよ。こっちの世界は『Perfect World』
みたいにくまくいかないけないけど、もう一度だ
け、生きてみるよ」

SE パソコンのクリック音

サチコの声「ヨージへ。この手紙をヨージが受
け取ったということは、私はもう現実世界に
いないということですね、『Perfect World』
でヨージと出会って、デートをして、付き
合って。私の人生後半戦は、ヨージのおかげ
でとても輝いていたよ。本当は現実世界で
ヨージと出会って恋をしたかった。抱き合っ
たり、キスがしたかった。ヨージは私が生きら
れなかった分も、こっちの世界を大切に生き
て」

自動音声「Perfect Worldを退会しました」

(了)

ヨージ「(涙)サチコ……」